



青森県高等学校PTA連合会事務局
〒030-0113 青森市第二間屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内
TEL 017-757-8586 FAX 017-757-8587
E-mail : akp017si@galaxy.ocn.ne.jp

104号

2026.7.15



青森県高P連調査広報委員会
題字：八戸東高等学校 諏訪内博彦



←「高P連公式HP」二次元コードからアクセス!!
<https://www.aomori-koupren.com/>

令和
8年度

青森県高等学校PTA連合会

弘前
大会



6月12日、弘前文化センター大ホールを会場に青森県高等学校PTA連合会弘前大会が開催されました。大会は中南区協議会副会長の須藤尚人氏の開会の言葉で開会式・表彰式が始まりました。

はじめに大会長の濱田大臣青森県高等学校PTA連合会会長が、本年度の大会テーマである「つながりで紡ぐウェルビーイング、共感・協働のPTA」とは心の豊かさであり、幸福や生きが

大会テーマ
「つながりで紡ぐウェルビーイング」
共感・協働のPTA

いを実感できる状態と説明した上で、国際情勢の不安定化や物価高騰など、先行きが見通しにくい時代だからこそ、保護者や教育関係者が心の豊かさを大切にしながら子どもたちを支えていくことが重要であると語りました。

また、学校における働き方改革の推進にも触れ、教職員の負担軽減が、子どもたちと向き合う時間の確保につながると述べ、青森県高等学校PTA連合会として、働き方改革を積極的に支援していく考えを示しました。最後に、本大会が参加者にとって学びと交流を深める有意義な機会となることを願ひ挨拶しました。

続いて、中南区協議会会長の鳴海友美大会実行委員長が、社会環境が大きく変化し複雑化する中、保護者・教職員・地域が、つながり支え合うことが重要なことから、「つながり紡ぐウェルビーイング」共感・協働のPTAを本大会のテーマとして掲げ、記念講演や研究協議を通して学びと交流を深め、学校の枠を超えた連携を広げながら、子どもたちの未来を支える持続可能なPTA活動につなげていきたいと挨拶されました。

感謝状・表彰状贈呈では、前PTA



会長、PTA活動功労者、退任校長・渉外主任・広報紙コンクール入賞校のそれぞれの代表に授与されました。その後、受賞者を代表して県高P連前会長高橋尚裕氏が受賞の謝辞を述べ、県知事、県教育長、高等学校長協会長の謝辞と弘前市長の歓迎の言葉を頂き、開会式・表彰式は盛会のうちに終了しました。

(三本木農業恵拓高等学校PTA会長

岡沼 剛士)

記念講演

「外国人の視点から見る青森…強みと課題」を聴いて



ギヤレス氏の講演を拝聴し、多くの学びを得ました。特に印象に残ったのは、困難な環境にあっても諦めず挑戦を続け、自らの可能性を切り開いてこられた歩みです。子ども頃は勉強が得意ではなく、ADHDによる苦労もあつたそうですが、そのような状況でも働くことや新しいことへの挑戦を通して経験を積み重ねてこられました。アメリカ軍への入隊、日本への移住、英会話教室の経営、さ

らにはクラフトビール事業の立ち上げなど、次々と挑戦を続けてこられた姿から、人生には一つの決まった道だけでなく、自分の行動次第で可能性を大きく広げられることを学びました。

また、外国人の視点から見た青森の魅力についてのお話も心に残りました。私たちが普段当たり前だと思っている豊かな自然や文化、おいしい食べ物、人々の温かさが、実は大きな魅力であることに改めて気付かされました。青森には仕事の少なさや若者の県外流出といった課題もありますが、「青森だからこそできることがある」という前向きな考え方に触れ、地域の良さを知り、誇りを持つことの大切さを実感しました。

今回の講演を通して、自分の可能性を自分で狭めず、失敗を恐れず挑戦することの大

切さを学びました。これから

娘の進路や将来について考える機会が増えていきますが、娘には周囲の評価や結果だけにとらわれず、自分が興味を持ったことに積極的かつ果敢に挑戦してほしいと願っています。そして私自身も、住んでいる地域の魅力に目を向け、その良さを多くの人に伝えられる存在でありたいと思います。

(木造高等学校
調査広報委員長 寺田 香澄)



会長挨拶



青森県高等学校PTA連合会会長
濱田 大臣

皆さま、はじめまして。今年度、青森県高等学校PTA連合会会長を務めさせていただくことになりました。大湊高校PTA役員の濱田大臣（ひろふみ）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会長という大きな役目をお預かりし、身の引き締まる思いであります。就任して数日経ちましたが、「本当に私で務まるのだろうか」と思う瞬間もあります。それでも、多くの皆さまとお会いし、一緒に活動できることを思うと、自然と前向きな気持ちが湧いてきます。

PTAは、保護者と先生方が気軽に話し合い、子どもたちの成長を支えていく大切な場です。そして、この活動を通して、私たち大人も新しい気づきを得たり、成長したりすることが出来ます。子どもたちがつないでくれたご縁を大切にしながら、皆さまと力を合わせ、明るく楽しいPTA活動を進めていきたいと思っております。

最後になりますが、先日の弘前大会の開催にあたりご尽力いただきました中南地区協議会の皆さまをはじめ、ご協力くださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。今年一年、どうぞよろしくお願いいたします。



「つながるPTA」

笑顔が溢れるメンバーと

弘前中央高等学校父母と教師の会

前会長 木村 愛氏

本校は弘前公園に隣接し、一九〇〇年に青森県第一高等女学校として開校して以来、百二十六年の伝統と歴史を誇る全日制普通科の学校です。本校PTAでは「できることを、できるときに、できる範囲で」をモットーに、会員が楽しく笑顔で参加できる活動が続いています。主な活動には、生徒の安全意識を高める自転車交通安全指導や、すぐに定員に達してしまうほど人気のある研修旅行があります。また、年3回発行される広報紙『輝雪』の編集、先生方や学年を超えた保護者同士の親睦を深めるボウリング大会など、皆さんとの温かい交流を促す多様な取り組みが展開されています。

こうした活動を通じて生まれるさまざまな「つながり」は非常に有意義で、役員を経験した保護者の皆さんからは「親子で高校生活を楽しめた」という喜びの声が寄せられています。また、PTAを卒業した先輩役員が後輩役員にアドバイスを送り、協力する場面もあり、これも築かれたつながりの一つの形です。

今後は、生徒である子どもたちのために学校祭でのPTA活動を計画し、学校・家庭・地域が三位一体となつて紡いできた大切な流れを、次の世代へ継承し、さらに発展させていくことを目指していきます。



「PTAのウェルビーイングの実現に向けて」

無理なく参加し、つながりを生む

PTA活動の工夫

八戸商業高等学校PTA会長

千葉 毅氏

本校は昭和2年に開校し、令和9年度に創立100周年を迎える伝統ある専門高校です。「自主・明朗・規律」を校訓に、生徒一人ひとりの主体性と多様性を尊重した教育活動を推進しています。

PTAでは、年2回の挨拶運動や生徒会館清掃、文化祭バザーなどを通して、生徒・保護者・教職員・地域との交流を深めています。特に文化祭では、協力しながら活動することで自然と一体感が生まれ、「また参加したい」という前向きな気持ちにつながっています。また、令和7年には、本校が三八地区協議会の事務局校として研修会を開催し、現代社会における地域活動やPTAの在り方について学ぶ貴重な機会となりました。

これらの活動を通して見えてきたことは、「参加しやすさ」がつながりを生み、その積み重ねがウェルビーイングの向上につながるという点です。本校では「無理のない範囲での参加」を大切にしており、短時間でも関われる活動や、楽しみながら参加できる機会を意識しています。今後、充実感を持てるPTA活動を目指し、従来の対面活動に加えてSNS等も活用しながら、多様な形で関われる「つながるPTA」を推進してまいります。



「つながるPTA研修をめざして」

「人」とつながる

「地域」とつながる研修旅行

むつ工業高等学校PTA会長

山崎 明男氏

本校は創立63周年を迎えた下北地区では唯一の工業高校です。来年の令和9年度には本校と大湊高校が統合する予定となっております。校訓「自立」のもと生徒の進路実現を積極的にサポートし、就職・進学ともに高い内定率となっております。また近年、地域との共同研究にも積極的に取り組み、『地域とのつながり』を大事にしております。

本校のPTA活動は各クラス3～6名のPTA学年委員の方々を中心に愛の一声運動やPTA広報誌の発行、むつ工祭における模擬店出店、球技大会での焼きそば提供などを実施し『生徒とPTAとのつながり』をより強固に、特に特徴的なのがPTA・後援会合同による環境整備や研修旅行を通じ『人と繋がる』事で共有・相談し合える人間関係を構築するきっかけとなっております。

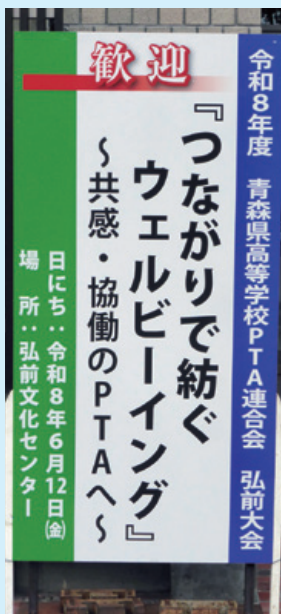
研究協議を通じ、「子供たちにとつてのPTA活動とは？」をあらためて考える機会となり他校の成功事例や取組事例をブラッシュアップし、魅力ある学校、輝ける生徒として引き出せるPTA活動となることが大切だと思っています。



弘前大会を終えて

大会実行委員長 鳴海 友美

本大会では、弘前文化センターを会場としたことに加え、研究協議会でのLINEオープンチャットの活用や、大会要項に生徒が撮影した写真を採用するなど、新たな試みにも挑戦しました。振り返れば、大会運営そのものが主体的に考え、協働する場であったように思います。平日開催にもかかわらず、ご来賓の皆様、243名の参加者の皆様、そしてすべての関係者のご協力により、9年ぶりの弘前大会を盛会のうちに終えることができましたこと、心より感謝申し上げます。



谷川市長歓迎の言葉



実行委員長挨拶



受賞者代表謝辞



記念講演



開会式



10年度開催地区代表挨拶



研究協議



濱田大会長



生徒発表
柏木農業高校 ねぷた部



広報紙展示



情報交換会



表彰式

「鍛える心・技・体。 目標は全国制覇！」

三本木農業恵拓高等学校 相撲部

本校相撲部は、前身である三本木農業高校から数えて創部87年の歴史ある部活動です。この間、インターハイ団体優勝3回をはじめ、多数の全国大会で優勝を果たしてきました。現在の部員は8名と決して多くはありませんが、常に「全国制覇」を目標に掲げ、高い向上心を持って稽古に励んでおり、稽古場はいつも活気にあふれています。

三農恵拓相撲部が大切にしているのは、単に強さを追い求めるだけでなく、高い人間性を身に付けることです。「心・技・体」を磨き、挨拶や礼儀を重んじ、人として成長することを心がけています。

6月上旬に行われた県高校総体では、日頃の積み重ねが実を結びました。インターハイ出場をかけた一戦では、部員全員が持ち味を発揮し、県高校総体団体3連覇を達成。見事、インターハイ出場を決めることができました。日々の稽古に真摯に向き合い、努力を惜しまなかった選手たちの姿は、非常にたくましく感じられ



れました。

今後は、7月下旬から行われるインターハイに向けて、さらに「心・技・体」を磨き、全国制覇を達成できるよう、謙虚に、そしてひたむきに精進していきます。相撲王国・青森の看板を背負い、今日も稽古に励みます。

(相撲部顧問 長谷川 将臣)

頑張っ
ています

我が部活

「千射万箭」

黒石高等学校 弓道部

去る6月に行われた令和8年度青森県総合体育大会弓道競技において、本校弓道部女子団体は第3位となり、東北大会への出場を決めた。また、技能優秀賞という栄誉ある賞もいただくことができた。さらに、個人では3年生女子選手が優勝を果たし、全国大会出場を決めた。

弓道は多くの生徒が高校から始める競技であり、皆が同じラインからスタートする。タイトルにもある「千射万箭」は、何本矢を射ようとも一射一射を粗末にせず、新たな気持ちで稽古に臨むべきだという教えであり、本校弓道部の部訓でもある。弓道を始めて2年余りで最後の高校総



体を迎える高校生にとって、毎日の稽古の一射一射が本当に重要であり、この短い期間での努力が結果に大きく影響すると考えている。部員たちもこの部訓のもと、日々充実した一射を目指して稽古に励んでいる。目標としていた団体での全国大会出場には届かなかったものの、「千射万箭」の成果を発揮できたと実感している。

本校弓道部は、1965年(昭和40年)の創部から今日に至るまで、黒石市の歩みとともに歴史を刻んできた。黒石市は、全日本弓道連盟初代会長であり「千射万箭」の言葉を残した宇野要三郎先生の郷里である。弓道と縁の深いこの地で弓に勤しむ本校弓道部員には、ぜひその歴史と伝統を胸に刻み、誇りと自覚をもって今後も精進してもらいたい。

(弓道部顧問 齋藤 和哉)



青森工業高校 女子新制服



←下山学園高校 旧制服
↓新制服



制服 今昔物語



十和田工業高校 旧制服



十和田工業高校 新制服



五所川原高校 新制服



青森中央高校 旧制服



青森中央高校 新制服



青森南高校 旧制服↑
新制服→



令和8年度 一般会計予算

収入総額 10,161,000円
支出総額 10,161,000円
差引残額 0円

令和8年度 事業計画

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

科 目	予算額	科 目	予算額
会 費	5,795,000	事 業 費	4,643,000
内 学 校 割	995,000	助 成 費	205,000
	40,000	組 織 活 動 費	1,898,000
	675,000	研 修・行 事 費	1,400,000
	280,000	負 担 金	900,000
会 員 割	4,800,000	表 彰 費	170,000
県 立・全 日 制	4,200,000	会 報 費	70,000
私 立・全 日 制	540,000	運 営 費	5,090,000
定 通・特 別 支 援	60,000	会 議 費	800,000
助 成 金	400,000	旅 費	2,300,000
繰 入 金	500,000	印 刷 費	100,000
繰 越 金	2,512,563	事 務 費	120,000
雑 収 入	3,437	通 信 運 搬 費	100,000
受 取 手 数 料	950,000	渉 外 費	80,000
内 学 生・こども総合保険	250,000	慶 弔 費	50,000
高 校 生 24 時 間 総 合 保 障 制 度	700,000	人 件 費	1,350,000
合 計	10,161,000	使 用 料	110,000
		雑 税 公 課 費	80,000
		繰 出 金	0
		予 備 費	348,000
		合 計	10,161,000

令和8年度 特別会計予算

収入総額 12,207,000円
支出総額 12,207,000円
差引残額 0円

収入の部 (単位:円) 支出の部 (単位:円)

頂 目	予算額	頂 目	予算額
繰 越 金	12,202,832	助 成 金	0
繰 入 金	0	特 別 支 出 金	1,650,000
雑 収 入	4,168	繰 出 金	500,000
合 計	12,207,000	予 備 費	10,057,000
		合 計	12,207,000

活動方針及び事業計画

- 生涯学習を推進し、会員研修と広報活動を充実する。
 - 各委員会主管の研修会や各地区協議会研修会等へ積極的に参加する。
 - 県大会（弘前市）東北大会（秋田市）全国大会（大分県 大分市・別府市）へ積極的に参加する。
 - 各委員会活動を活性化する。
 - 各委員会主管の研修会を充実する。
 - 東北地区高P連・全国高P連各委員会活動を担う。
 - 広報紙コンクールに積極的に応募すると共に、審査会を充実する。
 - 広報活動を拡充する。
 - 広報紙「つながり」（年2回発行）の内容を充実する。
 - 新入生保護者にリーフレットを紹介し、本連合会及びPTA活動の理解を深めてもらう。
 - 本連合会ホームページ（<http://www.aomori-koupren.com/>）により各種情報を提供する。
- 単位PTA及び地区協議会活動を助成する。
 - 各地区協議会の研究活動に対する助成を行うと共に、連絡や連携を密にする。
 - 単位PTA会長会議を開催（年2回）し、諸課題について協議すると共に情報交換を深める。
 - 高校生の健全育成に取り組む活動を支援する。
 - 生徒の安全に関する保険等への団体加入を推進する。
 - 全国高P連賠償責任補償制度、学生・こども総合保険、高校生24時間総合保障制度、高等学校安全互助会の加入率向上に努める。
 - PTA活動の望ましい在り方について調査研究を行い、生徒数減等による組織縮小化に対する様々な方策を模索する。
- 関係機関や関連団体との連携を推進する。
 - 県教育委員会・県高等学校長協会等と連携し、教育環境における諸課題や進路対策等に積極的に取り組む。
 - 県高校定時制通信制教育振興会・私立高校保護者会連合会・特別支援学校PTA連合会に対して助成を行う。
 - 県教育委員会等主催による研修会へ積極的に参加する。
 - 教育環境改善促進のための各種情報収集を行う。

令和8年度 委員会名簿

委員会名	役職名	氏 名	所属校名	単P役職名
健全育成	委員長	細 越 利 章	八 戸 商 業	副 会 長
	委 員	今 剛	青 森 北	健全育成委員長
	委 員	井 上 美 雪	弘 前 実 業	P T A 役 員
	委 員	小 野 修	五 所 川 原 工 科	健全育成委員長
	委 員	岩 間 和 香 子	三 沢	健全育成委員長
	事務局長	中 村 克 子	八 戸 商 業	渉 外 主 任
進路対策	委員長	桑 田 剛 俊	五 所 川 原	会 長
	委 員	菅 野 美 帆	青 森 東	進路対策委員長
	委 員	須 藤 尚 人	弘 前	会 長
	委 員	坂 本 博 之	八 工 大 第 一	副 会 長
	委 員	野 中 貴 健	田 名 部	進路対策委員長
	事務局長	川 口 智	五 所 川 原	渉 外 主 任
調査広報	委員長	佐々木 学	三本木農業恵拓	副 会 長
	委 員	小笠原 渚	青 森 西	調査広報委員長
	委 員	徳 田 祐 之	黒 石	会 長
	委 員	松 尾 夕 希	八戸聖ウルスラ	調査広報委員長
	委 員	寺 田 香 澄	木 造	調査広報委員長
	事務局長	山 崎 学	三本木農業恵拓	渉 外 主 任

令和8年度 役員名簿

役職名	氏 名	所属校名	備 考
会 長	濱 田 大 臣	大 湊	
副 会 長	中 村 美津緒	青 森 西	東青地区協議会長
	鳴 海 友 美	弘 前 中 央	中南地区協議会長
	千 葉 毅	八 戸 商 業	三八地区協議会長
	松 橋 俊 一	下 山 学 園	西北地区協議会長
	中野渡 裕 則	三 沢	上十三地区協議会長
	平 内 真一郎	大 湊	下北むつ地区協議会長
	中 川 伸 吾	青 森 森	県高校長協会推薦
	伊 藤 文 一	弘 前 中 央	〃 中南地区
	川 浪 泰 浩	青 森 西	〃 東青地区
	工 藤 大 地	八 工 大 第 二	私立高校保護者会推薦
理 事	田 中 正 也	青 森 商 業	県高校長協会推薦 各地区1名
	福 士 貴 博	弘 前	
	黒 坂 孝 孝	八 工 大 第 二	
	藤 田 明 彦	五所川原農林	
監 事	庭 田 浩 之	大 湊	中南地区協議会
	原 田 寿 晴	柏 木 農 業	
健 全 育 成 委 員 長	菊 池 真 理 子	北 斗	県高校長協会推薦
	細 越 利 章	八 戸 商 業	三八地区協議会
進路対策委員長	桑 田 剛 俊	五 所 川 原	西北地区協議会
調査広報委員長	佐々木 学	三本木農業恵拓	上十三地区協議会
顧 問	高 橋 尚 裕		前会長

青森県高P連事務局

事 務 局 長	岩 川 亘 宏	安全互助会事務局長
事 務 局 次 長	長 尾 吉 哲	安全互助会事務局次長
事 務 主 任	今 美智留	

編集

後記

今回の高等学校PTA連合会弘前大会のテーマ「つながりで紡ぐウェルビーイング」にも示されているとおり、先行き不透明な社会へと向かう子どもたちの成長と学びを保障するために、学校・家庭・地域・関係諸機関が相互に「つながる」ことが重要です。まさにこの会報紙のタイトル「つながり」にもその思いが表されていますが、この広報紙が少しでもそれを実現する手助けとなれば幸いです。今後も皆様のご協力をいただきながら充実した内容を掲載していきたいと思ひます。

調査広報委員長 佐々木 学



令和7年度 収支決算書

■収益の部

(単位：円)

科	目	決 算 額
経常収益		17,299,688
うち会費収入		13,405,950
うち雑収入		250,015
うちIBNR備金		3,643,723
経常外収益		0
収益の部合計 (a)		17,299,688

■費用の部

(単位：円)

科	目	決 算 額
経常費用		17,698,849
事業費		14,691,515
うち学校安全普及事業費		580,000
うち共済金等給付事業		3,398,173
その他の事業費		10,713,342
管理費		3,007,334
経常外費用		0
費用の部合計 (b)		17,698,849

(単位：円)

正味財産期首残額	120,056,491
当期増減額 (a) - (b)	- 399,161
正味財産期末残額	119,657,330

令和8年度 事業計画

◆ 学校安全の普及充実事業

講習会・研修会の開催や共催、後援

◆ 共済金の給付

死亡共済金・後遺障害共済金・歯牙欠損共済金・負傷共済金・香料

◆ その他目的を達成するために必要な事業

安全互助会だより66・67号発行、安全互助会運営のPR活動、各種事業への助成等

令和8年度 役員名簿

■理事・監事

職 名	氏 名	所 属
理 事 長	益 川 毅	三本木高等学校元PTA会長
理 事	中 川 伸 吾	青森県高等学校長協会会長 青森高等学校校長
理 事	田 中 正 也	青森商業高等学校校長
理 事	葛 西 孝 之	青森県高等学校PTA連合会元会長
理 事	高 橋 尚 裕	青森県高等学校PTA連合会顧問
常務理事	岩 川 亘 宏	青森県高等学校安全互助会事務局長
監 事	對 馬 祐 之	三沢商業高等学校元校長
監 事	須 藤 聡 志	青森商業高等学校前PTA会長

■評議員

職 名	氏 名	所 属
評 議 員	山 田 知	八戸東高等学校元PTA会長
評 議 員	黒 坂 孝	八戸工業大学第二高等学校校長
評 議 員	大 見 竜 人	むつ工業高等学校元PTA会長
評 議 員	蝦 名 由紀子	青森西高等学校元PTA会長
評 議 員	三 浦 真 介	弘前高等学校元PTA会長
評 議 員	加 川 香寿美	青森高等学校元PTA会長
評 議 員	奈 良 真 弓	五所川原高等学校元研修委員長

令和7年度 事業報告

1 学校安全普及充実事業費（助成金） 580,000円

(1) 地区協議会安全教育活動費	280,000円
(2) 県高等学校体育連盟	100,000円
(3) 県高等学校文化連盟	100,000円
(4) 県高P連安全教育活動費	100,000円

2 共済金等給付事業費 3,398,173円

(1) 死亡共済金	0円
(2) 後遺障害共済金	0円
(3) 負傷共済金	3,298,173円
(4) 香 料	100,000円

3 その他事業費

- (1) 安全互助会だより64号
- (2) 安全互助会だより65号
- (3) 安全互助会の手引印刷代
- (4) 新入生保護者用リーフレット印刷代

青森県高等学校安全互助会加入生徒数

全日制	21,840名
定時制・特別支援学級	960名
通信制	628名
総数	23,428名